



(3)

# 鶴殿麻里絵の神戸老舗うまいもん巡礼 「桃太郎 力餅」 創業大正元年



元町商店街の一本北の通りに面する本店



餅は、創業当時からきねどうすを用いてつくられている

創業から約100年近く続く店  
が元町にある。

当時はぜんざいなどが中心の甘

党の店であったが、初代 笠井一

さんから息子の二代目一弘さんに

代わった後はうどんなども始め、

職人気質で丁寧に作られた素材と

味だから行列ができるまで、そう

時間はかからなかつた。

だしは朝一番、鍋いっぱいに入  
れたかつおぶしをさつと引き上げ  
た関東風で、うどん、ねぎ、穴子、

もちなどがふつふつとおどり始めると、玉子をポンと落としてふたをする。これがここ一番のおすすめ「鍋焼きうどん」(550円)だ。食後には、年中人気のおはぎ(100円)がある。また桜餅、彼岸団子、柏餅(100円~150円)と旬ごとに顔を出すメニューがあるのも楽しみのひとつ。このあんこは年季の入った銅鍋で生あんと砂糖、塩でじっくりと練り上げたものを使っている。日本でもめずらしくなったきねどうすで作られた餅だけあり、たっぷりと水分を含むためか、しなやかな伸びを見せる。最近は新メニューの丼ものも好評だ。

## 【桃太郎 力餅】

鶴殿麻里絵 フリーライター  
神戸市中央区元町通4-6-15  
☎ 078-341-12834  
午前9時~午後6時半

日・祭日休み。

鶴殿麻里絵	フリーライター
昭和53年3月生まれ(25歳)	
87年の老舗料亭「松屋家」の4代目	食のフリーライターとして雑誌・新聞等で活躍中
今までに日本経済新聞土曜日夕刊に連載でコラムを執筆	



# BONSOIR MADAME

マダムコンパンワ (5)

はじめて、無理をせず  
おおらかな気持ちでもてなしを

銀の匙

竹村美代子さん

撮影／米田英男

「年齢を重ねることに、自然に重みを増していくような、存在感のあるお店にしていきたい」と順風満帆のこれまでを振り返りながら強い思いを口にした。

「年齢を重ねることに、自然に重みを増していくような、存在感のあるお店にしていきたい」と順風満帆のこれまでを振り返りながら強い思いを口にした。

「銀の匙」。生まれくる赤ん坊に、銀の匙を持たせると幸運に育つといわれてきた。「パレ北」で親しまれるパレ北野坂ビルの2階にある「銀の匙」。作家・中勘介の小説『銀の匙』がたまたま本棚につたからその著書からとった。

竹村美代子ママは、OLと二足

のワラジを履きながら20代を過ごし、30歳の誕生日に転機が訪れた。

当時、勤めていたクラブ「山本」

の山本洋子ママの勧めもあって「銀

の匙」をオープンさせた。

「とにかく、偶然に偶然が重なったとい

うか、絶対この世界で成功するという思いもありませんでした。まさに、無理をせずというのが私のモットー」とりえといえば、身体が丈夫というぐらいで、とくにお店に特徴もありませんし」。たんなんと話す姿からもマイペースぶりが窺える。その大らかさ、人

にあまり左右されないから、バブル崩壊後もさほど影響を受けなかつたという。同じフロア一に、八月（はずき）というカラオケスナックもオープンさせた。「銀の匙」

をオープンさせたのも8月、震災

後、再オープンしたのも8月だったから。

神戸市中央区加納町4-7-11  
パレ北野坂ビル2F  
078-334-1838

# 出会い・発見・めぐり逢い

第一回

## 骨董 ワンダーランド KOBE 2004

2004.4/9金 10土 11日

兵庫県立美術館 王子分館

原田の森ギャラリー

入場  
無料



“原田の森”から伝えたい  
骨董ワンダーランド開催実行委員会  
実行委員長 新井みき

4月9日  
11日(日)  
3日間、兵庫

県立美術館、  
王子分館「原

田の森ギャラリー」で、「骨董ワンダーランドKOBE2004」を開催することになりました。

めまぐるしい技術革新の中、新しいものこそが良いことだという時代を過ぎてふと振り返ったとき、古いものの中にあるこころ温まるもの、ものを大切にすること、創造することなど、これらの豊かさを、子供たちとともに体験することによって伝えていきたい。そんな想いをこめて、「骨董ワンダーランドKOBE2004」を企画しました。

神戸・兵庫県を中心として関西古美術が一堂に会し神戸の文化を彩る催しとして、また神戸・灘のイメージアップや周辺地域の活性化を図るとともに、大震災からの復興をアピールできればと考えています。  
多くの方々のご来場を心よりお待ちしております。



あったらいいな  
こんな小学校



協力: 神戸歴史クラブ

壱  
階

## 原田の森の学校 10月11日

登校時間 10:00 授業時間 11:00~16:00

原田の森を中心とした歴史のお話  
教室にて  
和紙人形作り  
竹細工作り  
よさこい踊り  
けん玉教室

要予約  
(当日受付にて)

石ころアート  
砂絵  
竹細工遊び  
ペーパーマーク  
マジックプレート

みんなで作ろう  
原田の森の学校  
校内にて  
オリジナルかるた  
文例募集

\*一部 材料費 有料

弐  
階

## 大展示室 約70店舗による骨董の展示即売会場

■ 後援

復興への想いを込めて...

**兵庫県、神戸市、兵庫県教育委員会、神戸市教育委員会、NHK神戸放送局  
灘区役所、神戸鹿児島県人会連合会、灘商店街連合会、灘駅前商店会**

■ 時間 9日(金)10日(土)…10:00~17:30 11日(日)…10:00~16:00

■ 会場 〒657-0837 神戸市灘区原田通3-8-30 TEL 078-801-1591

<次回、9月予定>

<http://www.kotto-wonder.com>

■ 主催 骨董ワンダーランド開催実行委員会 〒657-0836 神戸市灘区城内通5丁目5-13 TEL 078-801-6716 FAX 078-802-2264

\*実際の開催内容と一部異なる場合がございます。あらかじめご了承下さい。



### 骨董ワンダーランド 開催実行委員会

実行委員長 新井 みき

〒657-0836 神戸市灘区城内通5-5-13  
TEL.078-801-6716 FAX.078-802-2264  
<http://www.kotto-wonder.com>

日本全国輸送・海上コンテナ輸送・トレーラー  
産業廃棄物収集運搬業務  
株式会社 伸東運輸

代表取締役 稲村 義昭

本社  
〒650-0045 神戸市中央区港島8-11-6  
TEL.078-302-2511 FAX.078-302-2270  
携帯 090-8827-0500

外航海運物流業  
三洋シッピング株式会社

代表取締役 西田 利行

本社  
〒650-0024 神戸市中央区海岸通1-2-19  
TEL.078-332-4170 FAX.078-332-4860

1  
954年、英國製中級  
サルーン、ライレー1・  
5リッター。兄貴分として  
RMF2・5リッターサル  
ンが存在する。

「ライレー?」と首をか  
げる人が大半。「オッ! な  
つかしいね、まだ走ってる  
の?」と来れば余程のエン  
ス!。  
第二次世界大戦の終焉を



神戸クラシックカークラブ会員の  
自慢のクラシックカーが次々と登場します。  
車の種類は玉石混合ですが、自分の車に  
対する思い入れは金額に関係なくお宝です。  
愛人のように?

## 由緒正しき、 ジョンブル氣質

ライレーRME 1954年製  
文=玉屋喜英

C エッセイ  
essere B バンピーノ  
いつまでも  
少年のように



神戸のクラシックカー



伝統的な英国のクラフトマンシップが香る



(上) 当時最先端の技術の名作エンジン



#### SPEC ライレー 1.5L・サルーン

エンジン	直列4気筒 ツインアンダーヘッド・カムシャフト ヘミ・ヘッド 1496cc 54hp / 4500rpm
ステアリング	ラック&ピニオン
最高速	75mph (120km)
ミッション	4速マニュアル (2速以上シンクロ・メッシュ付)
ボディ	木骨・スチールボディ
ブレーキ	4輪ドラムブレーキ フロント オイルブレーキ リヤ ロードブレーキ
サスペンション	フロント コイルスプリング独立懸架 リヤ リーフスプリング
全長	4540mm
全高	1500mm
全幅	1610mm
車重	1250kg

戦後間もなく生れたこのモデルはライレー社の精神に忠実な伝統的な英国のクラフトマンシップと云う新旧世代の最善の資質が見事に結合された稀な例とされている。

又RMシリーズは、最後のライレーと云われ、それ以降のモデルは、単にライレーのバッヂを受けたウーブレーでありオースティンになってしまっている。正に4ドアサルーンのスタイリングとしてクラシカルとモダンの巧みな調和であり、その高い工作技術とファニッシュは、ブルーダイヤモンドの伝統に恥じない貴重なモデルと云つても過言ではないと思う。

当時輸入の難しい時代に40台のモデルが輸入され、当モデルは、その中の1台である。

戦後間もなく生れたこのモデルはライレー社の精神に忠実な伝統的な英国のクラフトマンシップと云う新旧世代の最善の資質が見事に結合された稀な例とされている。

又RMシリーズは、最後のライレーと云われ、それ以降のモデルは、単にライレーのバッヂを受けたウーブレーでありオースティンになってしまっている。正に4ドアサルーンのスタイリングとしてクラシカルとモダンの巧みな調和であり、その高い工作技術とファニッシュは、ブルーダイヤモンドの伝統に恥じない貴重なモデルと云つても過言ではないと思う。

# 小鼓会

## 小鼓会／新春の集い 神戸俱楽波デビュ－

あらばしり夜は夜の色に  
汲まれ来て 小鼓子

新春の神戸小鼓会は、2月10日午後7時から、西村屋和味旬彩（三宮店）で“美酒小鼓”と“カニ”的饗宴に約90名参加と人気抜群。

西山裕三社長は、「今夜は、

純米吟醸生酒（市島町産の“兵庫北錦を使用”）と、吟醸生酒（播州産の“山田錦”と丹波産の“五百万石”を使用）に加えて、新しいスタイルのグラッパ（ホワイトブランデー）「神戸俱楽波」を楽しんで頂きます。

このグラッパは、西山酒造場から1キロ離れた場所に、神戸ワインから酵母をもらいまして、4本の煙突がハイカラな工場が完成まして、そこで生れた「神戸俱楽波」（2500円）です。昨年暮れに還暦パーティを開いた西山社長の新しい挑戦ぶりが頼もしい。

貝原高校の同級生三原さんが乾杯の音頭を。司会は幹事の中島典子さん。

小鼓の名付親・高浜虚子の孫、高浜虚子記念文化館の高浜館長さんも参加。但馬本場のかニづくしは、さしみから焼きガニ、カニ鍋まで“神戸俱楽波”誕生にふさわしい冬の宴だった。



■西山酒造場／兵庫県氷上郡市島町竹田-1171 Tel 07958(6) 0331 Fax (6) 0202

■私の意見

## 明石海峡大橋を 国際観光のエースに

堀切 民喜

(本州四国連絡橋公団 総裁)



神戸は観光地として恵まれています。神戸市が一昨年秋に東京、仙台、福岡の各三百人を対象に行つた「神戸のまちのイメージ調査」によると、神戸は、港、異国情緒、ファッショントリニティ、六甲の山と緑、グルメの町とみられています。また、神戸で行つてみたいところは、有馬温泉、北野異人館街、六甲・摩耶、明石海峡大橋、六甲アイランドの順でした。

日本人の観光客には温泉、ショッピング、グルメが人気のようですが、神戸はその要件をすべて備えています。「月刊神戸っ子」をみるとここに暮らしていることの幸せをつくづくと感じるのであります。

しかし、日本の観光地が国際的にもう一つブームを呼ぶためには「外国人に好まれる観光地とは何か」をあらためて考えてみる必要があるのではないかでしょう。日本人にとっては「いい温泉がある」というのはたしかに魅力ですが、外国人には「自然や風景が素晴らしい」「他にない見所がある」「歴史や文化が素晴らしい」といった、本来観光の意味している「サイツ・シーアイニング」の要素をもっと前面に押しだすことが大切です。

外国人に好まれる観光地はどこか。私は、明治時代に新渡戸稲造が「予はじつに世界の宝石なりと断言す」と絶賛した瀬戸内海が最高だと思います。神戸は瀬戸内海の玄関口に位置しています。そして玄関口を彩るモニュメントとして世界最大の吊り橋である明石海峡大橋があります。

JR西日本は最近「海望浴に行きませんか」という面白い企画の中で舞子公園から眺める大橋の全景を紹介しています。また垂水区は区内から眺める大橋の「ビュースポット五十選」を最近発表しました。明石海峡大橋がサンフランシスコのゴールデン・ゲート・ブリッジのように神戸のみならず日本の国際観光の目玉になれたらというのが私の切なる思いですが、この二つの試みは私をたいへん勇気づけるものです。

■ポエム・ド・コウベ

# 春めぐる

詩 竹中 郁

画 小磯 良平

ふと立ちとまる。

誰かがわたしを呼んだ、  
なにかがわたしとすれ違つた。

連れだつてゐる妻よ、

いぶかるか

「なにか忘れものでもなすつて」と。

ふと立ちとまる、

ものの種子うる店の頭さき。

しづかなしづかな午ひる下さがり、

今しも羽根ふるはせて

ほの揺らぐ陽炎ひかり……

とき色にうす紫に

銘々やさしい名前を胸につけて……

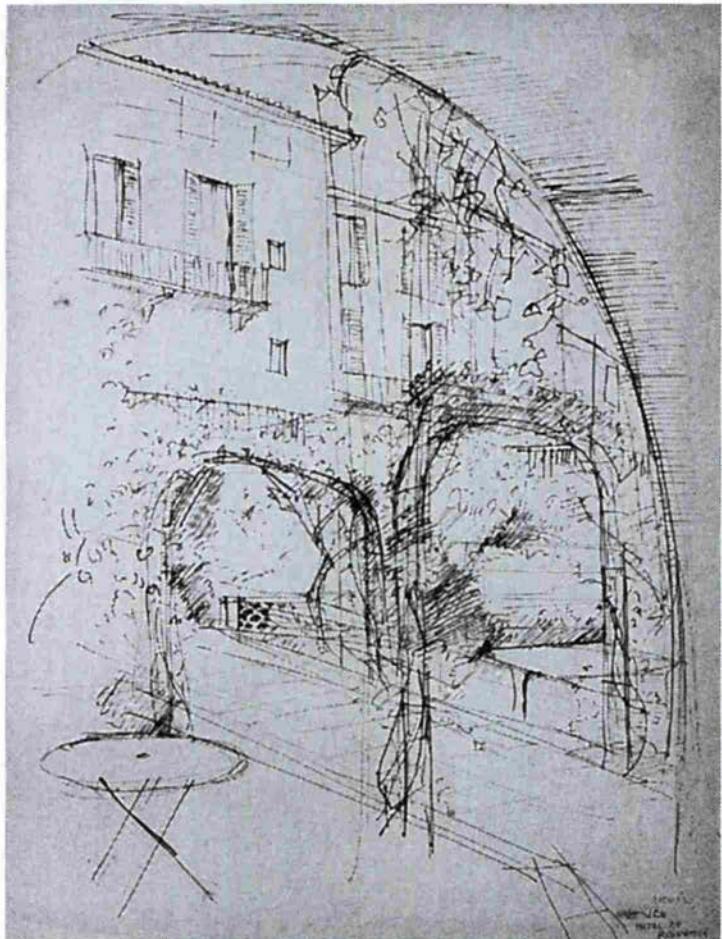
連れだつてゐる妻よ、  
いぶかるか

「なにか急に思ひ出しどもなすつて」と。

わたしは斯うして

今いくそたびこの季に回りあふことか、  
わたしは知らぬ。

(詩集『龍骨』から)



ヴァンス・ホテル・ド・プロヴァンス（フランス）昭和35年作  
神戸市立小磯記念美術館所蔵

# 神戸のこと 手当り次第

淀川長治  
え・中・西・勝

「ええとこ、ええとこ、聚楽館、わるいとこ、わるいとこ、ナンヤラ座」という流行語がその昔はやつたことがある。東京でいう「今日は三越、明日は帝劇」みたいな貴族的あこがれが神戸式にすればりと申すと「ええとこ、ええとこ」になる。

この聚楽館に大正十一年の暮れであつたろうか露西亞舞踊劇と称する一座が一行二十名あまりでやつて來た。技芸員のアンナ・パヴロワを筆頭に、これに加えて音楽指揮のセオドール・スタイルーとモスコウ・オーケストラ団。

この聚楽館はだいたい東京の帝劇をそつくりまねた感じで場内正面の舞台の前方のアーチ型の天井の壁画の泰西名画風の天使のさまざまな油絵の美しさ。またロビイから一步玉じやり敷きつめた庭に出ると、小さな噴水のたえまなく流れ出る水音のやさしさ。そのあたりにはテーブルと椅子が植え込みの木影にならんで夜空を仰ぎながらサイダーを飲んだ楽しさ。そんな聚楽館が好きだったが、またここで演るものもみんな上等で、しかもこんどはアンナ・パヴロワとかいう「えらい人」が来る。当時の新聞が一頁ちかくもさいてこの舞踊団を紹介もしている。これは一流の芸人にちがいない。そこで私は見なければなるまいと決心をした。

両親を説くと、父はその新聞広告をじつとみつめて、「これはやめとき、来月には天勝も来ることやさかい、それ見せたる」と云う父はなにをジーッと見つめていたのであろうかと覗くと、その一座の入場料が、たしか特等十二円、一等十円、二等八円とかいうその値段表。なるほど無理もない今から四十年もむかし、十二円とは現価では一万円にも等しかろう。

それでも私は一人で見にゆく決心をして、一番安いところの天井さじき、これでも当時としては立派なお値段の一金二円也。机のヒキダシをひっくり返すと一円八十銭しかない。父に母に云えは二十銭がとこくらいはくれるであろうが、えい、一人で自腹で行つてこませ……というわけで古本を五冊あまりひそかにかくし持つて古本屋に駆けつけた。生れて初めて自分のものを売つて人さまからゼニを頂いた。これが五十銭に売れて、入場料の二円につりが出た。

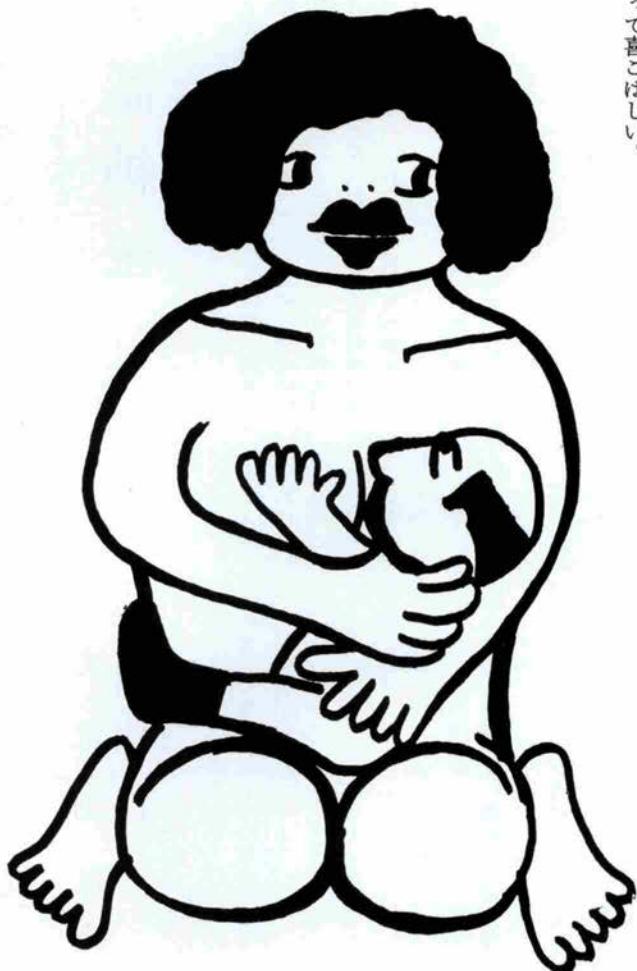
なんせ天井に近い席。そこで今でいうオペラ・グラスをしつかと握つて、さて、なにを演るのであろうとプログラムを覗くと、「花々のめざめ」ドリゴ作曲とある。やがてシャンデリアがすーと消えオーケストラ・ボックスにライトがあたり西洋人の指揮者が現われると万雷の拍手。けれどもやがて演奏が始まつてもなかなか幕があかぬ。「なにしとんねん、いつまで音楽ばっかりやつとんねん、舞台では舞踊家がまだ初日やさかい揃わへんねやなア、あほたれ」私はそんなひどいコトは思わなかつたが、それに近い気持ちでいると、やがて音もなくスーと幕が上つた。びっくりした。前に二人、うしろに三人、世にもきれいな純白の女が、両手を柔らかく開いて、前の二人はひざを下ろして、うしろの三人はつま足で立つて、それが右の肩に小さな花をつけ、十秒、二十秒、三十秒、びた動きもない。絵か人形か。私はかたづを呑んだ。やがて中指の先きからかすかに動き始めたその動きが手首に腕に肩に胸にと動きが次第に静から動に、そしてやがて足さきの滑るような前進開始とともに五人が揃つて両手をひろげフットライトの前にせいぞろいした時には私は思わず「アッ」とうめき声を出しかけた。

やがて「コッペリ機械人形」「眠れる皇女」となると私はこうふん状態。クルビンスキイ作曲という「ボウランドの結婚式」ではそ



のリズムその振付けまでが今もって目に浮かびそのメロディが現  
にいまも口に出せるほど印象あざやかだ。そしてその私のこうふん  
はサンサーンスの「瀕死の白鳥」にいたって頂点に達し……これは  
イケナイ。そう思った。聚楽館の表に立つて、私はそのはねてから  
どんどん観客が家路に急ぐ中を唯一人三〇分も四〇分もその「瀕死  
の白鳥」の大きな西洋製ポスターの前に立ち、それをうち眺め、も  
う一度これはイケナイ……そう思った。こんな芸術を私は一生よそ  
ごとに暮らすことは私にとって罪悪だと決心した。私はこの夜から  
ほんとうに舞踊家になろうと決心をした。

それで翌日の夜は、この催しは毎晩たしか八時が開演だったので七時まえからもう出かけ、こんどは両親から六円づつもぎとつて等席の当日売り、これがうまくたった一人というわけで手にはいり私は前から数席目のすこぶる上等の席で、心ゆくまでたんのうし、当夜はこれまたバヴロワの十八番ものの「トンボ」クライスラー作曲にめまいのする感激を受けた。その公演のあと私は非常口をひそかに開けて楽屋口にしのび込み、バヴロワに、せめて一座のボーカイであろうとも皿洗いのコックであろうとも、どうか加えて下さいませ……と頼みに出かけ、さてその人の渦の華やかな楽屋の入口で、私はシガードの匂い、花かごの山の中で、とうとうおじけづき一步二歩とあとすざりして、とても思いもかなわぬと逃げ帰ったのだが、あああのとき、思いきって弟子入りさえしてをれば今ごろは天下一の舞踊家になっていたであろうに。しかし、あのあといろんな人の舞踊書を買い集めベレエのなんたるかを学びとり、さて、ひるますいて人ひとりをらぬ町の銭湯の大鏡の前で、やわらかく両手を頭上で曲げ、つまさきで立ち、首をやさしく曲げた、その私のボーズに、私は、ああ、これは「ハクチヨーの湖」ではない、これはまさに「バクシヨーの湖」ぢやないかいなアと、さめざめと泣きはしなかつたが、とうとう、思いきって、あきらめましたね。そのときに。



- 誠実・誠実・誠実・誠実・誠実・誠実・誠実・誠実・誠実・誠実・誠実・誠実・誠実・誠実・誠実・誠実・誠実・誠実
  - 誠実なる夫は給料をそのまま女房に渡し、あらためてお小遣いをいただく。給料をかせいでくるのは夫であるが、その金を流通（浪費）させるのは女房である。
  - 誠実なる夫は一日の仕事が終ると、ただちに伝書バトよろしくまっすぐ家に帰る。女房が里帰りでもしようものなら変態的目付で女をながめ、夢遊病的目付で町をぶらつき、さまよい歩く。
  - 誠実なる夫は女房に赤ちゃんが欲しいといわれると、自分たちに輪をかけたような劣等なる子供をつくり、人間の動物的本能の一部をまるだしにし喜ぶ。人類の進化を考えるだけの余裕はまったくない一生のはとんどのエネルギーをただその子供のためにそそぎ、子供のためにといふ小世界に住みつくものなのだ。文明の進歩がそのような馬鹿な子供の中から発展していくものだけれども……。
  - 誠実なる夫が自らの住居として選らんでせまい部屋の中にむつりちよこなんと食事の出来るのを待っている姿は悲しげであり、そんな光景を人は愛の巢といい、私たちのシャトーなどと馬鹿げたことをいう女房が、少ないスペースの中にもう一人存在していることを忘れてはならない。
  - 誠実なる夫の中に男や女（女房以外）にもてるような男はない。とりかえしのつかない不幸（結婚）をばやき、自分の無能に不満をもち、その不満を正当化しようとする努力はそばで見ているものにとつて喜こぼしい。

向井修二<画家>/誠実・誠実・誠実・誠実・誠実 / 男の気持<sup>⑧</sup> 誠実

## 紳士入門 ⑥

How to be a gentleman

## 英会話紳士

文・竹田洋太郎  
え・鴨居玲

オリンピックが近づくので、各地では英語塾が満員だといふ。本屋にいくと「もうチョットで英語は話せる」といった名の本が並んでいる。またビジネスマンのために「アメリカ人と商売する法」などという英語勉強の本も出ている。これらはすべて紳士道に反する現象であり著作である。

紳士は、それなら英語を話す必要がないのか。否である。紳士は「紳士の英語」を話さねばならない。そのために、この章を読めば十分である。

群少の俗悪な本を読む必要はない。

第一に紳士は英語を話すことができなければならないが話す必要はからずもない。話がこんがらがつたが、いいかえれば、紳士は英語に堪能であるからしくは英語に堪能であるかのように見せればよいので実際に英語を話すこと、紳士であることとはなんら関係がない。むしろ流暢に、ペラペラと英語をしゃべる男はそれだけでも紳士の資格がない。トランジスタラジオといつわって、石炭ガラを輸出した人物も英語はたくさんであつた。

次に、英語に堪能であるかのように見せるにはどうすればいいか。ここに数例を挙げてみよう。

「いつてやりましたよ」という言葉が流行したことがある。さる非紳士はアメリカから帰国したとき「ワシントンでケネディ君に会ったとき、わしゃ『日本人を見そこなうな』といってやりましたよ、ワハハ……」

その時あなたはこの非紳士と一緒にになって「ワハハ：…」と笑うのである。そこでちょっと間をおいて小声で「ときどき『見そこなうな』というのは英語でどういったらしいのかな」と独り言のようにして近くの人へ聞かせる。その結果、最初しゃべった人物は実は英語を全然知らないで、あなたは相当英語がうまいという印象を近くの人は持つであろう。

また「最近いろんな方がお仕事で外遊されます、あなたも近くいらっしゃるのでしょう」と人にたずねられることが多い。その際には「私が外国へいつてもパテントの問題で法律上の議論をしたり、相手方の弁護士とやり合ったりするほど英語がうまくないものですから、現地の連中にまかせてありますよ」と、いつもおうよう語るのである。そうすれば、やはり相手の人はあなた

そこで、本当に英語に堪能な人は、できるだけ口数少なく話すのが紳士の英会話である。またその内容は、古今東西の話題をとらえて広く話してはいけない。天気のことだけに限る。イギリスでも眞の紳士は決してコールガールにウツツを抜かしているのではなく、クラブでは専ら天氣の不平を並べているのである。

ここでひるがえって、紳士の英語に最も必要なフレーズを覚えておけば極めて便利である。筆者の経験からすると、中学一年の英会話の時間から今日まで、一番よく

使ったのは I don't know. である。また、英國で出版されたさまざまな紳士道の書物にもそう書いてある。但し、紳士はこの I don't know. を中学で習ったままの発音でやつてはいけない。カタカナで「アイドントノウ」では明治大正の流行語である。カナで書くなら

アーチ・デュウント・ネヤウ

に近い発音でゆっくりやる。I don't know. はまた「私は知りません」と答えるだけではない。それを行うときに「さあ、そんな下らんことはボクは知らんね」とか「君そんなこと知らないのか」といった気持をこめて話さねばならない。他に数例を挙げるが、これはカッコ内の意味をこめていうことが肝要である。

As you know=「存知のよほど（多分君は知らんだろうが）

I may be wrong ... =私が間違っているかも知れませんが（間違うのはいつも君の方なんだが）

Thank you just the same. 結果がどうであろうとも感謝しています（とんでもないことをしてくれたな）

We must meet again ゼひお目にかかりましょう（一度と会いたくないね）

そして、全般的に紳士の英語はできるだけゆっくり、しかも相手に聞きとれないよう語尾を不明瞭にすること。その際、パイプや葉巻をくわえたまま話すと効果が増すものである。英会話においても相手をイライラさせ、イジワルをすることは正しい紳士の義務である。

### 「実録 英会話紳士海外編」

かって私が海外にいる時、色々の日本紳士を見る事が出来た。国を出る時秘書かなにかに、ホテルについたら必ずしっかりと名前を控えておけば迷い子になる事はないと教えられて来た紳士は、しっかりと玄関の名札をノートに記して夜の街見物にと出かけた。さて帰途タクシーに乗り込み、くだんの手帳を見せたのがまずかった。「EXIT」(出口)と記してあるのみであった

又、フランス語の出来る私の友人は地下鉄に乗った時にお腹の具合の変調に気が付いた。カフェに入るには折悪しく金がない。さればルーブル博物館のW・Cならばと前まで来ると運の悪い時はしょうのないもの、「本日休館」。それならばすぐ近所の「サマリテヌ百貨店」にとやっとの事でたどりついた（第一図参照）そして可愛いいマドモアゼルに、はやる胸ではないお腹を押えて、「ラバボー、シルヴァーブレ」(W・Cをどうぞ)と正確な発音で云った。ニッコリ微笑したマドモアゼルに導かれて地下室に下りた。はやあフランスの百貨店は地下にW・Cがあるんだなあと後に続く。（第二図参照）さあここですヨと云われた彼は本当に気が遠くなった。それは家庭用品の便器売場であった。……と云うような人の事を書くとさも私が語学にタシノウであるかのように人も思いそして私まで錯覚を起してしまう。悪い気持ではない。これが洋太郎会話入門の極意の一つではなかろうか。

第1図  
つここのよだりで、歩巾の乱れとせまいどこ  
とに御注意。



第2図  
最後の勇をふるつて、マドモアゼルの後  
を歩いた足跡である。日本男子の心意気

R



R

## ●第十四回

# 神戸つ子賞

日中友好の架け橋

## 林 同春



### ■選考委員



小泉美喜子  
(月刊神戸っ子編集長)



石阪春生さん  
(画家)



新野幸次郎さん  
(神戸都市問題研究所理事長)



米花穂さん  
(神戸大学名誉教授)

### ■選考経過

今回で14回目をむかえた神戸つ子賞。これまでも素晴らしい方々に受賞していただいたが、今年も世界に誇れる神戸っ子の名が次々とあげられた。

経済界からは、商工会議所会頭り観光に来る方々にも感動と希望をあたえた(株)ノーリツ会長・**太田敏郎**。医療機器で世界のトップレベルを走り、医療産業都市神戸を代表するシステムメックス(株)家次恒社長。神戸の食をリードする(株)ロッカフュールド・岩田弘三社長。

福祉・教育関係からは、プロップステーションの竹中ナミ。楽団あぶあぶの東野洋子。里親を求める「愛の手運動」を40年以上実施している家庭養護促進協会の橋本明。兵庫県委員長の並川明子が候補にあがつた。

そのほかでは、神戸とも縁の深い

い作家・**田辺聖子**。元町画廊の佐藤廉。棋士の谷川浩司。50年間神戸の夜を楽しませてくれたトム・キャントンティの神晴夫の名も。

最終的に、長年の功績と国際的な活動を称え、**林同春**への授賞と決定した。これからも日中の末永い友情と発展、世界の平和のためにご尽力いただきたい。

(文中敬称略)

### 歴代受賞者

1. 淀川 長治 (映画評論家)
2. 朝比奈 隆 (指揮者)
3. 陳 舜臣 (作家)
4. 宮崎 民雄 (前神戸市長)
5. 中内 刃 (ダイエー会長兼社長)
6. 中西 勝 (画家)
7. 東山 舶夷 (画家)
8. 素尾 河童 (舞台芸術家・エッセイスト)
9. 高村 勲 (コーブこうべ名誉理事長顧問)
10. 新野幸次郎 (神戸都市問題研究所所長)
11. 鬼塚喜八郎 (アシックス会長)
12. 貝原 俊民 (前兵庫県知事)
13. 下村 俊子 (神戸屈月堂代表取締役社長)

## ■推薦のことば

神戸に住み、活躍しておられる外国籍の市民は多い。林同春さんは、その中でも突出した一人である。林さんは現在、神戸華僑總会名誉会長、学校法人中華同文学校名譽理事長、社団法人神戸中華総商會会長などの他、大震災後に始った日中・神戸・阪神—長江中下流

域交流促進協議会など、関係されるお仕事は実に多く、与えられた字数ではとても書き切れない。

林さんは一九二五年生れであるが、九歳の時にご尊父のおられた日本に来住され、戦時中の想像を絶する辛酸に耐えて、戦争直後の昭和二十一年神戸に来られ、嘗々として今日の事業を築かれた。林

さんは今まで「橋渡る人」とい

う素晴らしい著書にも描かれてい

るよう、色々な仕事を担って、神戸と中国との橋を往来され、日

都神戸には欠かせない人になっておられる。

(新野幸次郎)



ご来賓された紀宮様に兵庫県外国人学校協議会の説明する林さん

著書『華僑波乱万丈私史 橋渡る人』



## ●第三十三回 ブルーメール賞

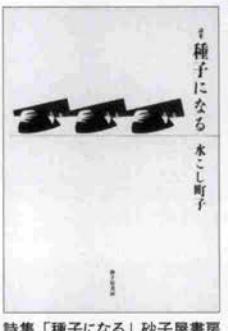
〈文学部門〉

柔らかで清冽な感性

# 水こし町子に



種子になる  
水こし町子



詩集「種子になる」砂子屋書房

### ■選考委員



鈴木 漢さん  
(詩人)



安水穏和さん  
(詩人)



伊勢田史郎さん  
(詩人)

### ■選考経過

今年の文学部門の授賞は詩の分野で活躍された方を対象となつている。

処女詩集『ガラスの部屋』が静かな反響を呼んでいる今井裕子。

春名純子の、子供に注ぐ視線が清新な『風屋』。ヒトは幸福になるようにはデザインされていない」と言う坂東里美の『約束の半分』。命への哀切な労わりに充ちた、永井ますみ『ヨシダさんの夜』。神尾和寿の、世の東西を問わず歴史上の人物たちが詩人の演出のもとからみあう110幕の短編悲喜劇

『七福神通り』。装丁にも徹底したこだわりをみせ精選九編を収めたCDサイズの真っ白な本、小野原和博『公園から』。など数々の詩人・詩集の名があがつた。なかでも繊細な詩人の魂を感じる水こし町子の『種子になる』に注目が集まり今回の受賞となつた。

(文中敬称略)

### 歴代受賞者

- |           |      |            |        |
|-----------|------|------------|--------|
| 1. 中村 隆   | 〈詩〉  | 17. たかとう匡子 | 〈詩〉    |
| 2. 鄭 承博   | 〈小説〉 | 18. 栄枝 紀子  | 〈小説〉   |
| 3. 小泉八重子  | 〈俳句〉 | 19. 田中 紀子  | 〈詩〉    |
| 4. 福元 早夫  | 〈小説〉 | 20. 夏巳ゆらこ  | 〈小説〉   |
| 5. 三宅 武   | 〈詩〉  | 21. 渡辺 信雄  | 〈詩〉    |
| 6. 秋吉 好   | 〈小説〉 | 22. 吉田 典子  | 〈小説〉   |
| 7. 江頭 越子  | 〈詩〉  | 23. 村中 秀雄  | 〈詩〉    |
| 8. 桜井 利枝  | 〈小説〉 | 24. 大塚 雅子  | 〈評論〉   |
| 9. 梅村 光明  | 〈詩〉  | 25. 増田まさみ  | 〈詩〉    |
| 10. 吉保 知佐 | 〈小説〉 | 26. 野元 正   | 〈小説〉   |
| 11. 季村 敏夫 | 〈詩〉  | 27. 岩崎 風子  | 〈詩〉    |
| 12. 福岡 勝利 | 〈小説〉 | 28. 毛 丹青   | 〈エッセイ〉 |
| 13. 時里 二郎 | 〈詩〉  | 29. 由良佐知子  | 〈詩〉    |
| 14. 松尾美恵子 | 〈評論〉 | 30. 北原 文雄  | 〈作家〉   |
| 15. 武田 信明 | 〈詩〉  | 31. 今村 欣史  | 〈詩〉    |
| 16. 山西 史子 | 〈小説〉 | 32. 上村武男   | 〈作家〉   |

## ミモザの花

大きなミモザの木がある  
今年の春も黄色い花が鈴のように咲いた  
月見山駅の横の  
線路ぎわにある更地に  
毎年少しづつ大きくなっていくミモザの木  
土台だけになつた  
家はすっかり解体された  
でも庭木のミモザは残つた  
あんなに揺れて  
屋根も柱も倒れたのに  
大きく根をはっていたミモザの木は倒れなかつた  
女の子はミモザの木と一緒に育つた  
女の子は手の中にミモザの花をいっぱいのせて遊んだ  
女の子はミモザの花のようエレガントになつた  
何日か後の結婚式を女の子は待つていた  
女の子はミモザの見える南側の部屋で死んだ  
天井の梁が落ちてきた  
女の子はいつも言つた  
ミモザの花が大好き  
あれから何年たつたのか  
彼は訪れる  
花のない時も  
花の満開の時も  
花の終った時も  
女の子はミモザの木になつた  
女の子はミモザの花になつた  
ミモザは女の子になつて大きくなる  
ミモザは女の子になつて花をつける

## ■推薦のことば

詩集『種子になる』を読んでい  
ると、限りなく優しい気持ちに浸  
されてくる。作品の対象が、とて  
も辛い出来事や悲しい風景である  
にも拘らず、そうなのである。

次に記すのは、震災直後、両親  
を失った女の子が引き取られてい  
く電車の中の様子だ。

六歳位の女の子がおばあさんと  
いた／二人共前を見ているのに／  
前は何も見えていなかつた／シー  
ンとしていた／……／時々おばあ  
さんが横を向いて／女の子に話し  
かけても／一言も答えなかつた”  
（二月のおわり）

ガレキの町が整理され、建売住  
宅などがたちはじめた頃、”あの  
時のままの／電車の中の女の子”  
の姿が詩人の脳裡に浮かび上がっ  
てくるのだという。この集の作品  
すべてに柔らかで清冽な感性、そ  
れでいて透徹した批評の目が偏在  
している。一昨年の一月十七日、  
松方ホールであった震災関連の催  
しで、竹下景子さんは「ミモザの  
花」を朗読。涙されたが、他の詩  
編ともども繊細な詩人の魂のふる  
えの伝わってくる秀作だ。『種子  
になる』は、ブルーメール賞に  
ふさわしい詩集といえる。

## ●第三十三回 ブルーメール賞

〈音楽部門〉

神戸で学び、パリが育てた美貌の歌姫



中西弘則さん  
〈神戸新聞文化部編集委員〉



喜敏也さん  
〈音楽評論家〉



小石忠男さん  
〈音楽評論家〉

### ■選考委員

### ■選考経過

最近の音楽活動の傾向として、小型ホールをうまく活用し、音楽家と聴衆とが一体感を持てるような素晴らしい音楽会が数多く催され、とても水準の高い音楽を味わう機会が多くなってきている。

そんな多くのアーティストの活躍が目立つ中、昨年度の音楽界を振り返り、次のような候補者の名があがつた。

クラシックでは、合唱界で注目を浴び続ける作曲家・千原英喜。バッハを中心とする宗教音楽を中心にお演奏活動を続ける指揮者・本山秀穂。「ランメルモールのルチア」で充実した歌唱力を發揮し、出色だったソプラノの尾崎比佐子。若手ヴァイオリニストの育成に大きな功績があり、自身も松方ホールでの演奏会「ベートーベン・ヴァイオリンソナタ・シリーズ」が大好評であったヴァイオリニスト・小栗まち絵。新進気鋭の若手ヴァイオリニスト・

イオリニスト・木嶋真優。また、ジャズ界からは世界に活動の舞台を広げている小曾根真など実力派が勢ぞろいした。

このように着実に活動を続ける音楽家中でも、特に昨今の活躍ぶりが目覚しく、ヨーロッパのオペラ通も大絶賛する声楽家・唐澤まゆこの授賞が満場一致で決まった。

(文中敬称略)

### 歴代受賞者

1. 田原 富子	〈ピアノ〉	18. 広岡 隆正	〈声楽〉
2. 矢野恵一郎	〈合唱指導〉	19. 大前 洋子	〈作曲〉
3. 上月 優子	〈バレエ〉	20. 中野 哲	〈ピアノ〉
4. 今岡 頌子	〈バレエ〉	21. 中野 慶理	〈ピアノ〉
5. 小石 忠男	〈音楽評論〉	22. 修二 一郎	〈リュート〉
6. 中村 茂隆	〈作曲〉	23. 岡本 優文	〈声楽〉
7. 関 靖子	〈作曲〉	24. 畑 優子	〈声楽〉
8. 坂本 芽衣	〈声楽〉	25. 金洞 祐子	〈声楽〉
9. 山内 鈴子	〈ピアノ〉	26. 「アート・エイド・神戸」	〈プロデュース〉
10. 松本 幸三	〈声楽〉	27. 鈴木 雅明	
11. 伊藤 和世	〈ピアノ〉	28. 「指揮・シェンバロ」	
12. 井上 広	〈声楽〉	29. 北浦 洋子	〈ヴァイオリン〉
13. 末廣 光夫	〈プロデュース〉	30. 林 裕	〈チェロ〉
14. 延喜 宋子	〈声楽〉	31. 井田 中	〈声楽〉
15. 中西 武春	〈指揮〉	32. 松原 敏子	〈ピアノ〉
16. 中西 青井	〈作曲〉	33. 千振 千振	〈指揮〉
17. 青井 彰	〈ピアノ〉		

## ■推薦のことば

唐澤まゆこは神戸女学院大学音楽学部を卒業、フランスに留学して、パリ国立高等音楽院声楽科と古楽科バロック科に学び、最優秀の成績で卒業した。従来フランスを中心に活躍してきたが、昨年から日本にも活動範囲を広げ、既に大阪でも二回のコンサートで非常な好評を博した。英デッカからも

デビュー盤が発売され、いま注目のお新鋭である。

彼女はフランス歌曲、それもバルのレパートリーをもつが、最近は非運の王妃マリー・アントワネットの埋もれた作品を発掘、生來の美声と才氣にあふれた魅力的な舞台で紹介した。彼女の歌唱は明晰なフランス語にバロックの時代的

な唱法を加え、独自の創意にみちた解釈で、シャンソンの領域まで手中に納めている。今年はフランスのオーケストラと来演することが既に発表されているが、フランス歌曲のエスプリを表現する希少な存在として、今後の活躍が期待される。

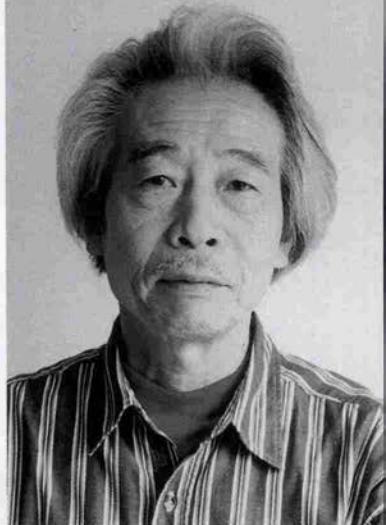
（小石忠男）



## ●第三十三回 ブルーメール賞 〈美術部門〉

継続する力強さ

# 小野田 實に



### ■選考経過

まず今後の課題として、美術館のあり方と将来像を考え直す時期にきていたという話題がのぼった。これからは芸術の香り高い阪神間のイメージをなくさないためにも、アーティストを、市民が本気で支援していただきたい。



岡田弘さん  
〈元町画廊社長〉



河崎晃一さん  
〈芦屋市立美術博物館学芸部長〉



越智裕二郎さん  
〈兵庫県立美術館企画部マネージャー〉

### ■選考委員

んだ分野で活躍をみせ注目された名前がいくつもあがつた。

最終的に、今年は「具体」結成50周年記念ということもあり、こつこつと積み重ねてきた小野田實の仕事の成果が認められ今回の授賞となつた。

(文中敬称略)

今回の候補として名があげられたのは、CAP HOUSEの活動が話題の杉山知子。平成15年度兵庫県芸術奨励賞受賞し、重厚さの中に生命感を漂わせる抽象画を描く

岸本吉弘。神戸二紀展のギャラリー島田賞を受賞した岩島雅彦。ここ10年の仕事の充実ぶりがめざましい福島清。「マイグランドラザーズ」のシリーズや「グランドドーダーズ」で注目をあつめヨーロッパでも活躍中のやなぎみわ。花をモチーフにした具象的な傾向への展開を示す児玉靖枝。ベテランの金月焰子。など、バラエティに富

### 歴代受賞者

- |            |      |
|------------|------|
| 1. 山口 牧生   | 〈彫刻〉 |
| 2. 丸本 耕    | 〈造形〉 |
| 3. 小西 保文   | 〈洋画〉 |
| 4. 藤原 向恵   | 〈版画〉 |
| 5. 斎藤 智    | 〈平面〉 |
| 6. 郷 相和    | 〈洋画〉 |
| 7. 山本 文彦   | 〈洋画〉 |
| 8. 堀尾 慶治   | 〈造形〉 |
| 9. 榎 武判    | 〈造形〉 |
| 10. 松谷 武   | 〈版画〉 |
| 11. 木下佳代   | 〈平面〉 |
| 12. 宮崎 豊治  | 〈造形〉 |
| 13. 藤原田 利保 | 〈建築〉 |
| 14. 武田 順久  | 〈平面〉 |
| 15. 石川 政裕  | 〈平面〉 |
| 16. 松原     |      |
| 17. 牧生     | 〈彫刻〉 |
| 18. 松本     | 〈彫刻〉 |
| 19. 杉山     | 〈造形〉 |
| 20. 田中     | 〈彫刻〉 |
| 21. 坪田     | 〈絵画〉 |
| 22. 片山     | 〈版画〉 |
| 23. 牛尾     | 〈彫刻〉 |
| 24. 中井     | 〈絵画〉 |
| 25. 奥田     | 〈写真〉 |
| 26. 赤崎     | 〈造形〉 |
| 27. 宮崎     | 〈造形〉 |
| 28. 上前     | 〈造形〉 |
| 29. 上村     | 〈造形〉 |
| 30. 内藤     | 〈造形〉 |
| 31. 山口     | 〈造形〉 |
| 32. 塚脇     | 〈造形〉 |

## 推薦のことば

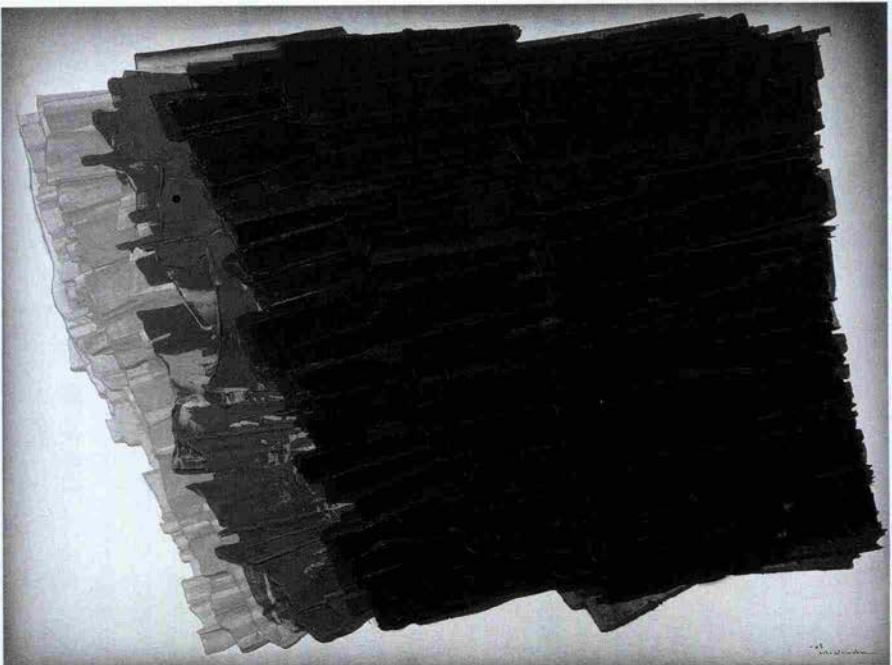
58年の二紀会展をスタートに、60年代から姫路を基盤として活動を続いているベテラン画家小野田實に今年のブルーメール賞が贈られる。

具体美術協会の後期メンバーのひとりであり、コンスタントに発表してきた40年以上のキャリアは、継続する力強さを感じさせる。ゆるやかな画面のふくらみの上に記された小さなマルが不定形に繁殖を続けていく作品から、空白の領域を基調とした精神的な色彩作品を経て、近年では色の痕跡をとらえた作品へと、いずれもあざやかな色彩を放ちながらも、どちらかといえば地味な芯の強さを受ける。そう感じるのは、私が知る小野田自身の人柄から受ける印象があるかもしれない。

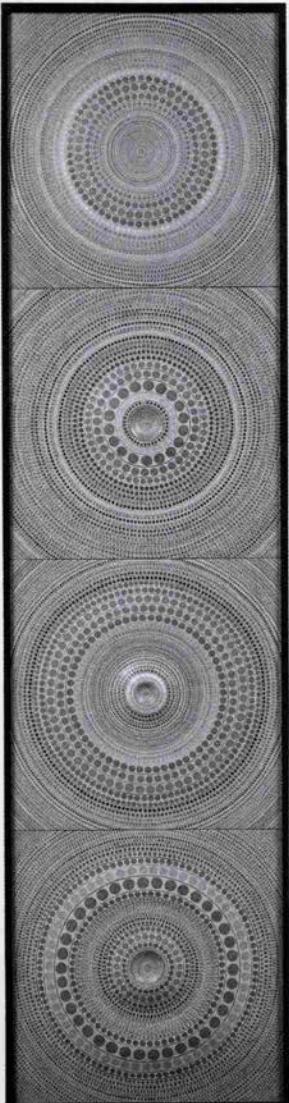
1月に姫路で開かれた「小野田實の世界展」の集大成をきっかけに、新たな創作の世界を見せてくされることを期待したい。

(河崎晃一)

WORK68-R 1968年



WORK03-jul 2003年



WORK68-R 1968年

●第三十三回 ブルーメール賞  
(舞台芸術部門)

無上のエレガンスを表現



# 上月倫子 バレエスクールに

## ■選考経過

昨年のさまざまな舞台から、邦楽では、舞踊生活90年にして最後

## ■選考委員



佐野達策さん  
(元神戸新聞取締役文化事業局長)



岡田美代さん  
(演出家)



山本忠勝さん  
(神戸新聞編集委員)

の舞台となつた花柳呂月の神技「山姥」の素晴らしさと急逝を惜しむ声が。そして藤間京見「年増」花柳吉叟指導のもとレベルアップした舞台をみせる小さくら会の中でも際立つてのびてきてる花柳吉小叟、花柳旭叟。創作舞踊での試みがおもしろかっただ坂東大蔵が評価された。

能・狂言では善竹忠一郎「鮑庖丁」「泣尼」の実力が高く、照の会の上田貴弘、拓司、公威、大介四兄弟の活躍には目を見張るものがあると絶賛。

洋舞では、貞松・浜田バレエ団の「くるみ割り人形」「白鳥の湖」の堅実なひとつ、日本の感性・表現力にプラスした気品と心に賞賛があがつた。創作力といきいきした新鮮さが評判の、鬼才上田裕久の「高野聖」。藤田佳代舞踊研究所の創作実験劇場での金沢景子

「壁を通りぬけるもの」の構成と振り付けの面白さにも高い評価があつた。

数多くの名があがつた中でも、とりわけ上月倫子の「ジゼル」の指導力、振り付けの力、やわらかさのあるバレエの素晴らしさに高い評価があり、上月倫子・バレエスクールの団体での授賞となった。永年の努力が結ばれた輝かしい栄冠である。  
(文中敬称略)

## 歴代受賞者

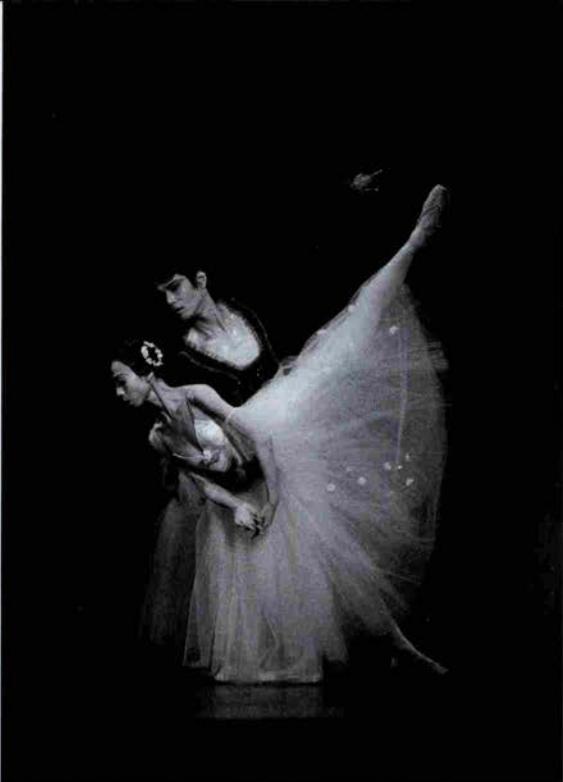
- |                 |               |
|-----------------|---------------|
| 1. 花柳芳恵一子       | 16. 楠本 喬章     |
| 2. 若柳吉由二        | 17. 東仲 一矩     |
| 3. 吉井 順一        | 18. 久田 徹二     |
| 4. 花柳芳五三郎       | 19. 大和楽団の会    |
| 5. 花柳 吉叟        | 20. 貞松・浜田バレエ団 |
| 6. 藤間緑寿郎        | 21. 花柳芳圭次     |
| 7. 尾上 菊見        | 22. 劇団四季      |
| 8. 藤井 徳三        | 23. 貞松正一郎     |
| 9. 海野 光子        | 24. 善竹忠一郎     |
| 10. コメディー・ド・フルグ | 25. 花柳小三郎     |
| 11. 加藤きよ子       | 26. 若柳吉金吾     |
| 12. 藤田 佳代       | 27. 太田 由利     |
| 13. 花柳五三輔       | 28. 善竹隆司・隆平   |
| 14. 白羽 弥仁       | 29. 上甲 裕久     |
| 15. 松本 尚壽       | 30. 藤間莉佳子     |
|                 | 31. 阿藤 久子     |
|                 | 32. 小寺一登代     |
- （演劇）  
（演劇）  
（モダンダンス）  
（舞踏）  
（邦舞）  
（映画）  
（邦舞）



ジゼル第1幕



上月倫子バレエスクール第23回発表会2003.10.5 神戸文化大ホールにて



ジゼル第2幕 辻 有紀／沖潮隆之

### ■推薦のことば

バレエは大きな矛盾をはらんだ芸術です。高度な技術が要求されますが、技術がナマの形で見えるようでは底の浅い舞台になります。精神的な深さが要求されますが、深刻な精神があらわに見えるようでは品位を欠く舞台になります。高い技術が端正な精神で十分にコントロールされなければ本当の美しさを表すことはできません。上月倫子バレエスクールの「ジゼル」(03年10月5日、神戸文化ホール)は見事にその高みに到達しました。谷桃子バレエ団でまぶしくらいに輝いていた倫子さんが東京から呼び帰されたのは昔気質の父上のお考えがあつてのことでしたが、倫子さんは父以上に従いながらしきりぎりのところではご自分を通されて神戸で後進の育成に当たられます。そして38年のご努力。今ジゼルに辻有紀を育て、ミルタに小田雅を得て、確かな技術で人間の深みを無上のエレガンスで表現することに成功しました。神戸にまたひとつ本物のバレエの美が現れました。

(山本忠勝)

## ●第三十三回

# ブルーメール賞

(ファッション部門)

眠れる美のセカンドデビュー

## 藤井美智子に



### ■選考委員



見寺貞子さん  
(神戸芸術工科大学助教授)



小泉美喜子さん  
(月刊神戸っ子編集長)



鈴木章子  
(神戸ファッション専門学校校長)



藤本ハルミさん  
(デザイナー)

### ■選考経過

神戸市のファッショントリトリー宣言から30年が過ぎ、これまでにさまざまな活動を続けてきた神戸ファッション協会に注目が集まつた。

特に神戸のファッション力のコーディネーターとして活躍してきた岸上龍平の優秀さは、特筆すべきものであると賞賛の声が高かつた。

そのほかにもいろいろな形で、ファッショントリトリー宣言に活動する候補の名があがり、ファッショントリトリーで優秀な成績を受けた星野貞治、塚本千恵美のハンドバッグのセンスの良さ。パリのマレ地区でお店を持ち活躍する伊藤ひろみなど、評価すべき若手が多かつた。

若手の企業家としてモデル・タレント・プロダクション(株)ノイエの飯田新吾。若手アーティストを数多く擁する(株)ドリームアンド・アの杉本悟。福祉とファッションを融合させた長田区ユニバーサル

デザイン研究会(会長・森清登)の名があがり、これから活動に期待したい。

数々の候補の名があげられた中から、今回は長年にわたる「タンスの中のルネッサンス」の地道な活動への評価が高く、デザイナとしても指導者としても藤井美智子がふさわしいと評価され授賞決定となつた。

(文中敬称略)

- |                                 |                                     |
|---------------------------------|-------------------------------------|
| 1. 藤本ハルミ (デザイナー)                | 16. 大西前子 (デザイナー)                    |
| 2. 米田博司 (神戸市心身障害者福祉センター)        | 17. 福井恵子 (旅の作家)                     |
| 3. 市野木悦子 (ニットデザイナー)             | 18. 服部メガネ店 (メガネ)                    |
| 4. KLT.S (コウペジニアフーラーズ)          | 19. 佐藤悦枝 (アートフラワー-デザイナー)            |
| 5. 太田タマコ (アートフラワー)              | 20. 山本芳樹 (ホテルゴーフルリップ ファッションライブラー監修) |
| 6. K.F.M. (カウペフランジアエティ)         | 21. 大丸神戸店 (百貨店)                     |
| 7. 「真珠の街・神戸」を考えるプロジェクトチーム (パール) | 22. 今岡宣和 (神戸ルミナリエ作品 ブロデューサー)        |
| 8. 神戸市家具青年会 (家具)                | 23. 貢神戸ファッション協会                     |
| 9. K.F.M. (カウペフランジアエティ)         | 24. VEGA (ジャヴァグループ)                 |
| 10. 望月美佐 (書道家)                  | 25. シューズプラザ                         |
| 11. K.F.C. (カウペフランジアエティ)        | 26. 内海和子 (ジュエリーデザイナー)               |
| 12. 村上和子 (ジャーナリスト)              |                                     |
| 13. 中村一夫 (デザイナー)                |                                     |
| 14. 柴田音吉 (柴田グループ代表)             |                                     |
| 15. 丹野最世子 (デザイナー)               |                                     |

## ■推薦のことば

藤井美智子さんは「タンスの中のルネッサンス」をテーマに、生徒たちを指導しながら、日本の伝統的な暮らしの中で息づいてきた着物の良さを活かし、祖父母から大切に受け継いだ素材を手作りでよみがえらせ、セカンドデビューの機会を創る仕事を始めて25周年。3月10日(水)ホテルオークラ神戸で開かれる“モードメイトミチコ”のファッションショーパーティは、30回を迎える、創った洋服を生徒がモデルとなってショーアップする独自のスタイルが、シニアを中心に神戸の紳士たちがエスコートするという楽しいハイカラ神戸の交流イベントとなって“名物”今まで成長したと思う。

読売新聞カルチャー教室の、神戸・大阪を受け持ち、生徒さんの腕は確実にレベルアップ。

今回のテーマは「啓蟻」と、日本四季を感じさせ、中国獅子舞を呼ぶなど、演出も毎回工夫があり、企画力とその継続力は、地についた仕事をして浸透してきたようだ。

また古希を前に、藤井美智子自身のデザインも、タンスの中や長持ちの中の着物に脚光を浴びさせて楽しく、夏は浴衣パーティもあり、企画力とその継続力は、地についた仕事をして浸透してきたようだ。

(小泉美喜子)



“モードメイトミチコ” ファッションパーティーより